

西表島でのガイドツアーの改善

西表島の世界自然遺産登録に関連したツアーガイド向けの説明会に出席したが、ツアーが可能な流域等の範囲が決まりつつあり、この範囲内での入域者数の規制ができそうである。一方、議論されている案には二つの根本的な問題が残されている。島全体としてのツアー参加者の総数規制が明確でないため、活動範囲内での入域者数を上回るツアー希望者に対応する形で活動が許されていない場所でのツアーが生じそうである。今でもオーバーユース状態の自然環境にさらに負担をかけてしまう。一提案であるが、西表で催行できるツアー内容に制限を設けたらどうだろうか。例えば「溪流で行われているキャニオニング（溪流滑り）は石に付着している藻、小動物等を全て削り取って生態系に大きなダメージを与えるので禁止する」である。西表島で催行されているガイド業には自然観察を目的にしたもの、キャニオニングの様に自然観察以外の活動を主目的にしたものに大別されるが、後者の内容を精査し、猶予期間を設けて禁止する等にしたらどうだろうか。

現在の案では公民館に所属する等で地域に関係すれば申請だけで誰もがガイドになれる。一方、知識・経験を持った優秀なガイドでも地域との関係がなければガイドにはなれない。西表島には外国の自然保護区では当たり前の高専門性を持ったガイドがほとんどいない。早急に質の改善を図るべきである。自然環境を楽しむ、学ぶが西表島での理想的な観光形態の一つであるが、質の良いガイドは個々の生物の生活史、生態的な位置づけ等の説明ができる。説明に自然資源の活用法が含められれば理想的となる。彼らは緊急時に対応できる知識と技能も習得している。

地域住民による自然資源の利用がこれまで通り認められる様であるが、概ね全島が推薦地の西表島での推薦地選定方法がこれまでの知床等とは異なるので将来的に不安が残る。同じ推薦地でも西表島ではイノシシ猟が可能で、ヒルギ・ヘゴ等を利用できるが、白神山地ではマタギは狩りができず、イワナ漁、山菜取りが禁止されている。ガイドツアーの規制が不十分な状態で遺産登録がされると自然環境が荒廃して登録見直しの際に推薦地への厳しい改善案が提示されるであろう。結果、地域住民にしわ寄せが及びかねない。地域住民による自然資源の利用は文化であり、伝統文化の継承のためにも遺産登録がされても地域住民による自然資源の利用が可能と明文化される必要がある。